

(所管事項)

4 公共交通の維持・確保に向けた取組について

公共交通の維持・確保を図るため、地域における移動手段の確保に向けた市町の取組が進むよう支援するとともに、国や市町、交通事業者等による協議の場を活用するなど、関係機関と連携して利便性向上や利用促進の取組を推進しています。

1 市町の取組への支援

(1) 地域における移動手段の確保に向けた取組

交通不便地域等における移動手段の確保に向けた市町の取組支援について、今年度、既にデマンド交通の導入にかかる支援を行っている4市町（桑名市、鈴鹿市、伊賀市、川越町）に加え、新たに南伊勢町の取組を支援しています。

取組	実施主体	事業概要
デマンドバスの実証運行	南伊勢町	「切原・五ヶ所浦・中津浜浦デマンドバス実証運行事業」 ・高齢者の通院・買物等の移動手段の確保を図るため、定時定路線をベースに予約に応じて所定の乗降場所まで迂回を行うデマンド型小型バスの実証運行を実施 ・実施日時：令和6年2月～3月 ・運行方法：交通事業者に委託

(2) 観光地における夜間のタクシー増車配備の実証事業

観光地（伊勢市）で夜間にタクシーが不足しているとの声があるものの、実態が把握できていないことから、伊勢市及びタクシー事業者等と連携し、タクシーの需給状況を把握するための実証事業を2期に分けて実施しました。

第1期の調査結果からは、土曜日は配車ができない割合が他の曜日に比べて高いこと、金曜日の20時～21時、土曜日の20時～22時は入電件数も多く、配車ができない割合が相対的に高い傾向にあることが明らかとなりました。

第1期の結果をふまえ、第2期にはタクシーを増車して実施したところですが、年末年始の需要が高い時期であったこともあり、第1期と同様に配車ができない割合が高い曜日や時間帯がありました。

①実施期間

（第1期）令和5年8月3日（木）～9月30日（土）の木、金、土曜日

（第2期）令和5年11月30日（木）～令和6年2月10日（土）の木、金、土曜日 ※12月21日（木）～1月13日（土）の期間は除く

②実施時間：実施期間の20時～24時まで

(3) 今後の対応

引き続き、交通不便地域等における移動手段の確保に向けて、市町が実施するニーズ調査や実証事業、定着の取組や、地域特性に応じた交通ネットワーク構築に向けた取組を支援します。また、タクシー増車配備の実証事業の成果を共有するなど、市町における取組の横展開を図っていきます。

2 関西本線活性化の取組

(1) 関西本線通勤利用モニター事業

関西本線（亀山～加茂間）の利用者は、通勤等の定期券利用者が約7割を占めており利用を下支えしています。このことから、通勤利用者の裾野の拡大に向けた課題の整理を行うため、協力企業を募集し、通勤利用をしていない従業員にモニターとして利用していただく事業を実施しました。

事業を実施する中で、「駅から勤務地までの距離が歩くには遠い」などのご意見をいただいております。二次交通の確保・充実が課題となっています。

- ①協力企業数 19社
- ②モニター数 76人
- ③モニター利用期間 令和5年8月下旬～12月31日まで

(2) 関西本線の利用促進に向けた潜在需要調査

関西本線の持続可能性や利便性の向上、利用促進に向けた取組の活性化につなげるため、沿線地域である亀山市、伊賀市と名古屋、大阪、奈良等との間の移動実態や潜在的な需要などの調査を実施しました。

調査を進める中で、通勤や通学、観光等の面で潜在的な需要が一定あることがわかってきましたが、これらの需要を取り込むためには、二次交通の確保・充実などのさまざまな取組が必要です。

- ①統計整理による移動需要把握
使用データ：国勢調査、パーソントリップ調査、位置情報データ 等
- ②関西本線沿線企業アンケート（令和5年11月実施）
調査対象：関西本線から10km圏内にある亀山市・伊賀市の5人以上の従業員を擁する事業所
配布数等：配布1,995件、回収372件（回収率：18.6%）
- ③草津線沿線企業アンケート（令和6年1月実施）
調査対象：草津線から5km圏内にある滋賀県内7市町（草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市、湖南市、竜王町）の20人以上の従業員を擁する事業所
配布数等：配布2,098件、回収463件（回収率：22.1%）
- ④亀山市・伊賀市全戸アンケート（令和5年12月実施）
調査対象：伊賀市・亀山市の全世帯（回答は中学生以上）
配布数等：配布約60,000世帯、回収743件
- ⑤亀山市・伊賀市内の高校生のデータ分析（生徒数：計2,333人）
調査対象：亀山高校、上野高校、伊賀白鳳高校、あけぼの学園高校
調査内容：生徒の出身中学校や通学手段、進学先等进行分析

(3) 今後の対応

県、亀山市、伊賀市、JR西日本で構成する「関西本線活性化利用促進三重県会議」や関係自治体・事業者等とも連携し、今年度の調査結果も活用しながら、引き続き、住民等に対する普及啓発や利用者の確保に向けた取組などを検討・実施し、利便性向上や利用促進を図っていきます。

3 事業者等と連携した取組

(1) 通学用サイクルトレイン実証運行

自転車と電車を用いた便利な通学を可能にし、保護者による送迎負担を軽減するとともに、地域公共交通の利用促進などを図るため、鉄道事業者（近畿日本鉄道）、鳥羽高校、志摩高校、国、県が連携して、沿線の高校生の通学手段として鉄道を利用する「通学用サイクルトレイン」の実証運行に取り組んでいます。

鉄道事業者は、4月からの新入生も含めて利用希望があれば引き続き実施するとの意向を示しており、継続実施に向けて関係者と調整を図っていきます。

- ①実施期間：令和5年12月4日（月）から令和6年3月29日（金）までの平日
- ②実施線区：近鉄志摩線 鳥羽駅～賢島駅
- ③対象学校：鳥羽高校（最寄駅：志摩赤崎駅） 参加者1名
志摩高校（最寄駅：志摩磯部駅） 参加者4名

(2) 県内鉄道事業者と連携した取組

県と包括連携協定を締結している株式会社ポケモンの協力のもと、県内鉄道会社全8社と連携して、みえ応援ポケモン「ミジュマル」を使用した鉄道周遊スタンプラリーを実施しました。また、これに合わせ、「ミジュマル」がデザインされた「伊勢鉄道ミジュマルトレイン」の運行を開始しています。

(ミジュマルスタンプラリー)

- ①実施期間：令和6年1月19日（金）～令和6年3月10日（日）
※スタンプ及びスタンプ台紙の設置期間は3月30日（土）まで延長
なお、スタンプラリーのプレゼントへの応募は3月15日（金）で終了
- ②スタンプ設置駅：県内鉄道24駅
- ③参画鉄道会社：JR東海、JR西日本、近畿日本鉄道、養老鉄道、伊賀鉄道、伊勢鉄道、三岐鉄道、四日市あすなろう鉄道

(伊勢鉄道ミジュマルトレイン)

- ①運行開始日：令和6年1月22日（月）から当面の間
- ②運行区間：津駅からJR四日市駅間
- ③デザイン：ミジュマルをメインとした伊勢鉄道オリジナルデザイン
- ④その他：「伊勢鉄道ミジュマルトレイン出発式・県内鉄道会社連携記念イベント」を開催（令和6年1月22日）

(3) 今後の対応

引き続き、観光施策等との連携を図るとともに、国や市町、事業者等と協働して一層の利便性向上や利用促進に向けた取組を推進していきます。

5 移住促進の取組について

移住の促進については、本県の移住相談の総合窓口である「ええとこやんか三重 移住相談センター（東京・有楽町）」を中心に、オンラインも積極的に活用しながら、移住相談者のニーズに応じたきめ細かな対応を行いました。また、移住・交流ポータルサイトや県が持つ広報番組等を活用し、県内全市町の移住関連情報の発信を行ったほか、全国移住フェアへの出展、他県との広域連携によるプロモーション等を実施しました。

1 令和5年度の取組

(1) 令和6年1月末時点の移住者数、相談者数について

- ・ 県および市町の施策を利用した県外からの移住者数 435人(前年同期 312人)
- ・ 移住相談件数 1,484件(前年同期 1,373件)

(2) 関西圏・中京圏に向けた情報発信のさらなる充実

本県への移住実績が多い、関西圏・中京圏からのさらなる移住者増加に向け、マスメディア等を活用した三重の暮らしの魅力発信や、県独自の移住フェア（大阪市、名古屋市）を実施しました。県独自の移住フェアでは、両会場あわせて200名を超える来場者があり、フェアをきっかけにして移住が決まった事例や、フェア後も継続して相談をいただくなど各市町とつながっている事例もあります。

(3) 新たな情報発信・交流の場づくり

9月に Facebook グループ「日々三重」を立ち上げ、三重県を移住先候補としている方向けに、先輩移住者や地域づくりに取り組んでいる方たちによる地域の情報などを発信しています。また、「日々三重」の参加者に三重県で宿泊を伴う暮らしを体験してもらう取組を県内各地で5回実施し、22名の方に参加いただきました。

これらの取組を通じて三重県での暮らしをより身近に感じてもらうことで、移住に向けて仕事や住まいを探すなど、具体的な行動につながっています。

(4) 移住者を受け入れる態勢の充実

移住者と地域をつなぐ人材を育成する全6回の連続講座を開催し、9名の方に参加いただきました。講座では県内各地域の現場において、移住者のサポートに役立つ知識や移住者と地域をつないでいる方の取組を学んでいただきました。

また、市町を対象に移住希望者のニーズや先進取組事例を共有する担当者会議や、移住相談・情報発信の手法等を学ぶ研修会を開催し、移住相談対応等のブラッシュアップを図りました。

2 今後の対応

人口減少対策における社会減対策の1つである移住・人口還流の促進に向けて、移住希望者に三重を知ってもらい、「選ばれる三重」となるため、様々な手法によりプロモーションの強化を図るほか、新たな層を対象とした相談対応を充実していきます。

また、移住希望者の不安軽減や県内定着を図るため、住まいの充実に取り組む市町の支援や、引き続き、移住者と地域をつなぐ人材の育成を行い、移住者を受け入れる態勢の充実に取り組めます。

令和5年度 4月から1月末までの移住者、相談者の状況

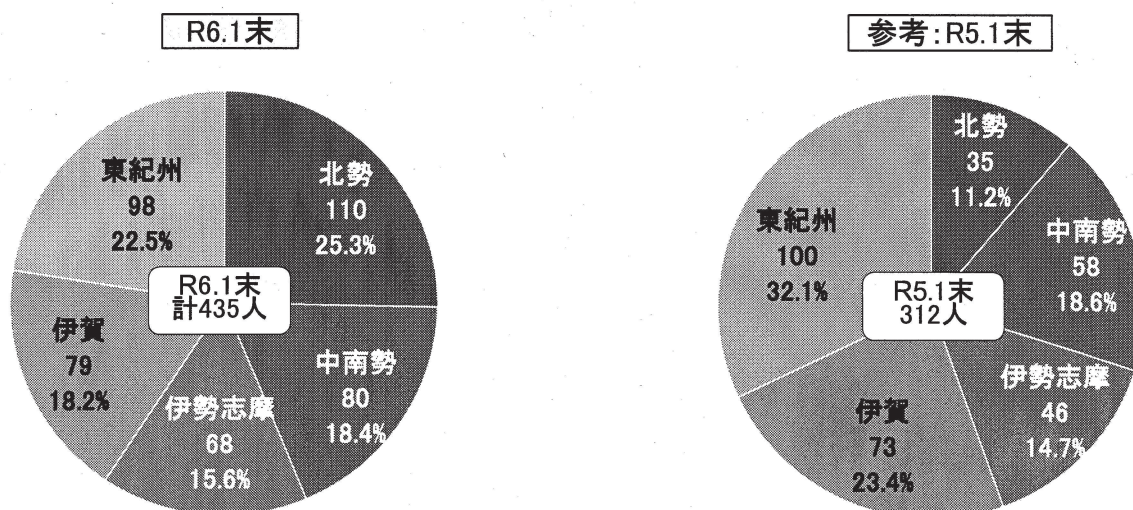
1 県および市町の施策を利用した県外からの移住者 移住者数 435人

県および市町の施策を利用した状況

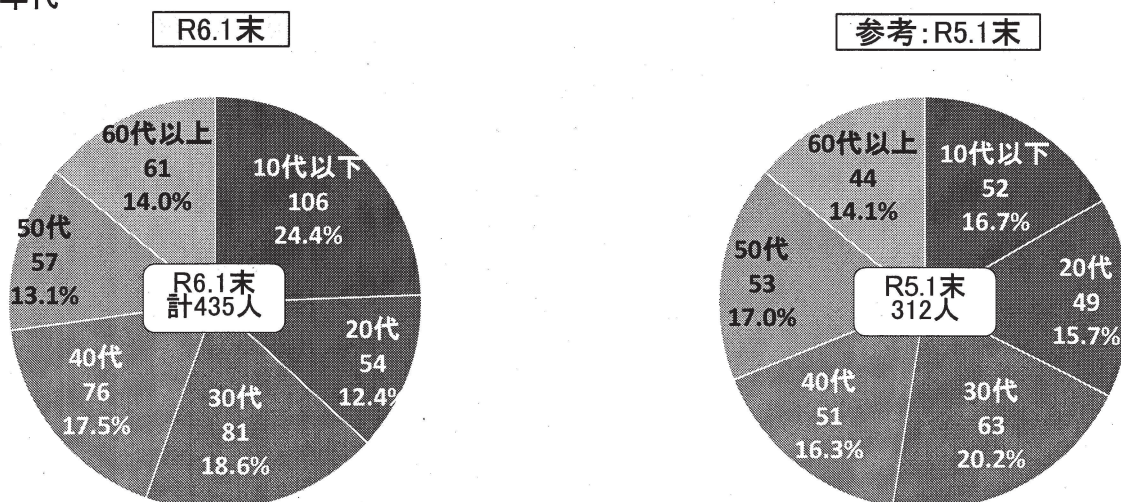
		R6.1末		参考(R5.1末)		
		項目	移住者数	割合	移住者数	割合
内訳	市町の補助・助成制度利用		195人	44.8%	93人	29.8%
	空き家バンク		118人	27.1%	118人	37.8%
	市町移住相談窓口利用		84人	19.3%	62人	19.9%
	地域おこし協力隊(任期終了)		10人	2.3%	6人	1.9%
	その他各市町施策		9人	2.1%	4人	1.3%
	県施策		19人	4.4%	29人	9.3%
	合計			435人	-	312人

※県施策と空き家バンク等市町施策を重複利用している場合は、市町施策に分類しています。

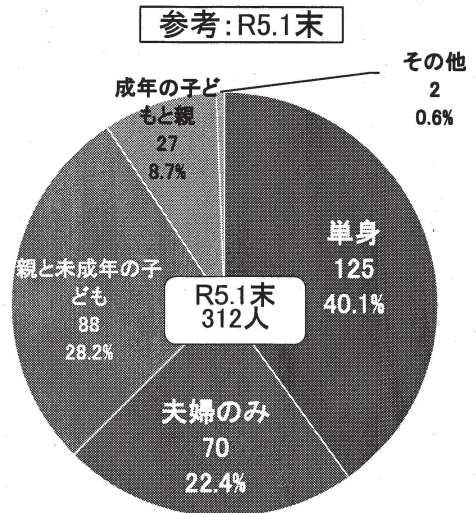
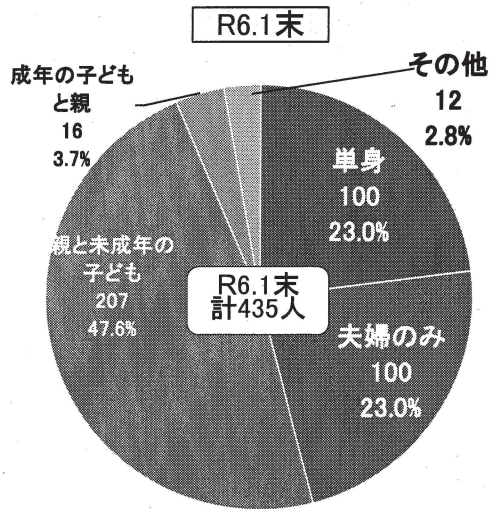
(1) 移住先の地域



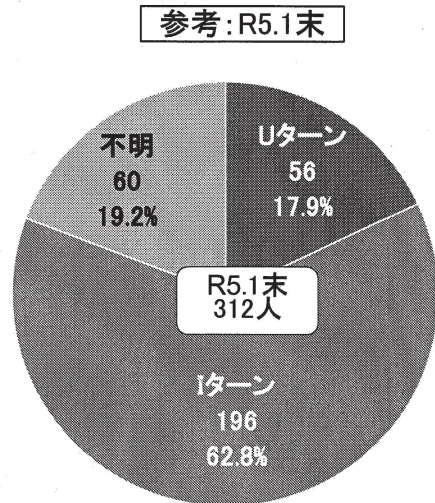
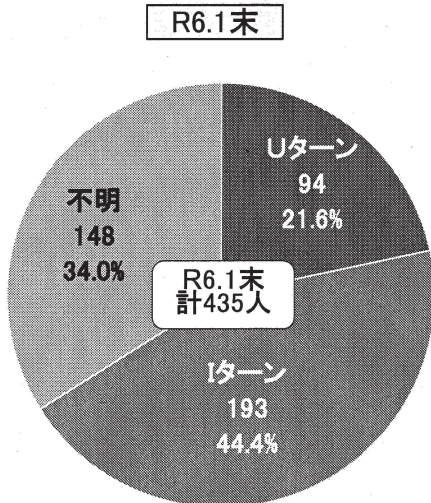
(2) 年代



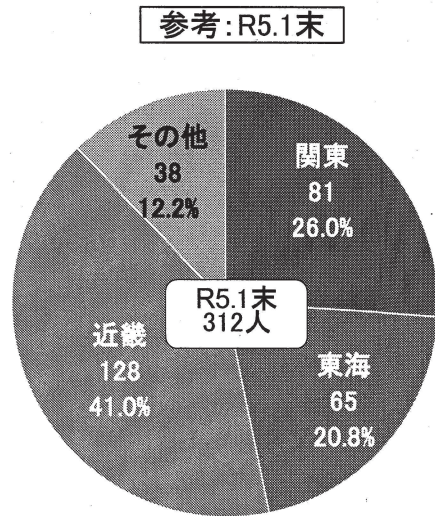
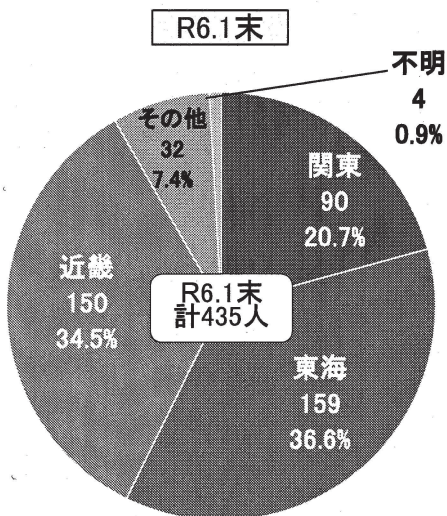
(3) 家族構成



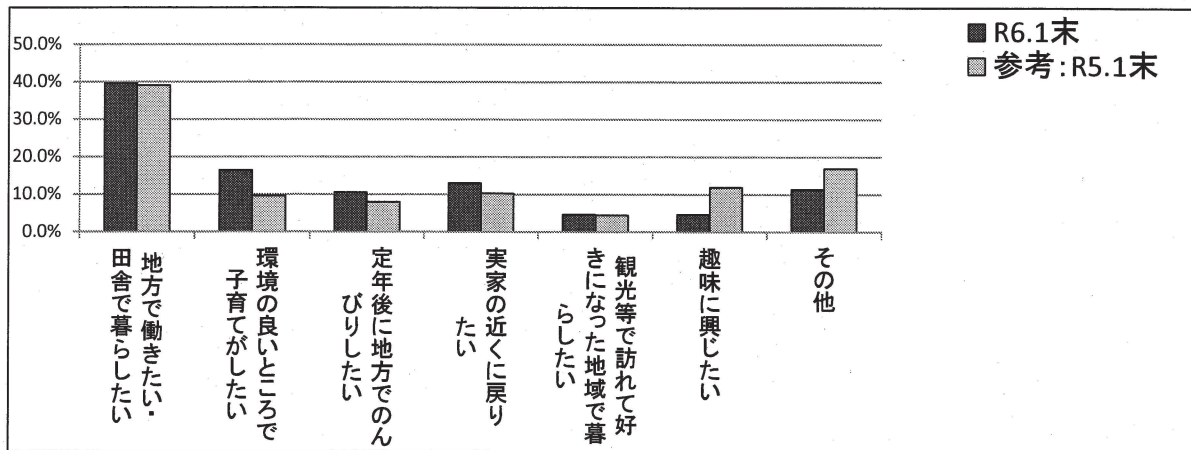
(4) Uターン/Iターン



(5) 移住前の地域

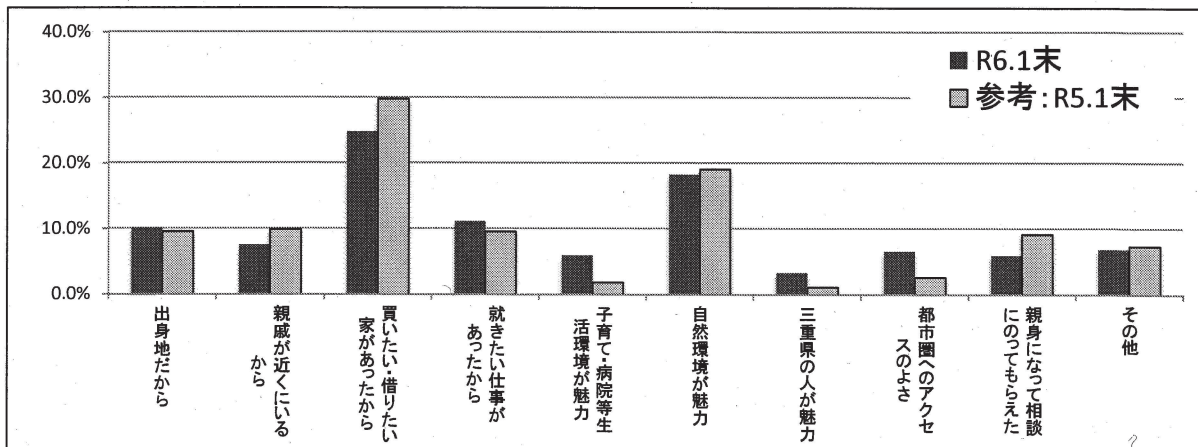


(6) 移住のきっかけ(複数回答有延べ R6.1末:238件、R5.1末:177件)



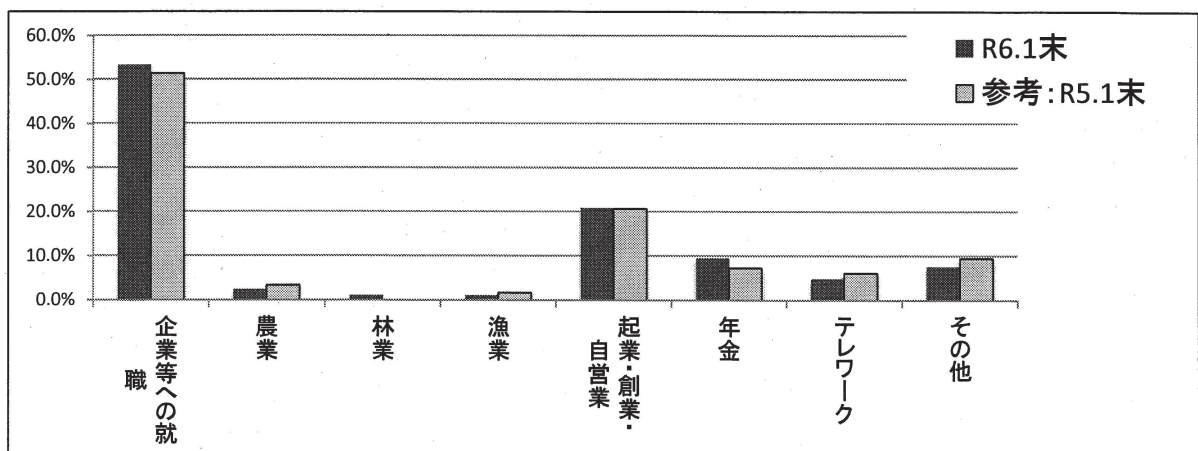
R6.1末	39.5%	16.4%	10.5%	13.0%	4.6%	4.6%	11.3%
R5.1末	39.0%	9.6%	7.9%	10.2%	4.5%	11.9%	16.9%

(7) 三重県に決めた理由(複数回答有延べ R6.1末:307件、R5.1末:272件)



R6.1末	10.1%	7.5%	24.8%	11.1%	5.9%	18.2%	3.3%	6.5%	5.9%	6.8%
R5.1末	9.6%	9.9%	29.8%	9.6%	1.8%	19.1%	1.1%	2.6%	9.2%	7.4%

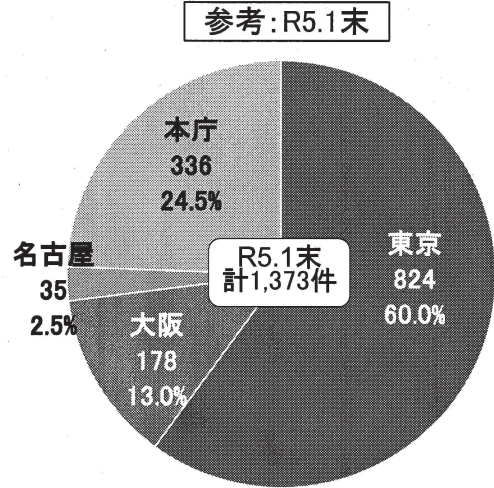
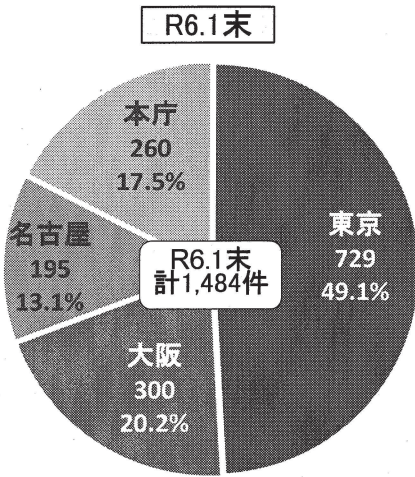
(8) 移住後の生活基盤(複数回答有延べ R6.1末:212件、R5.1末:179件)



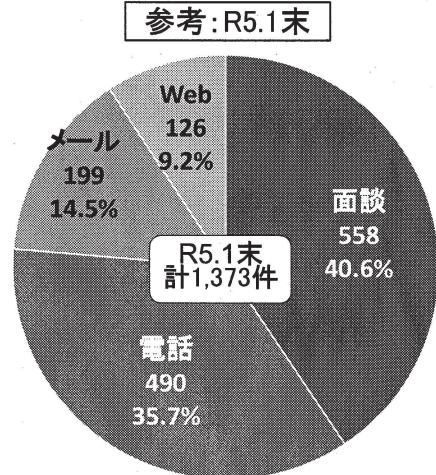
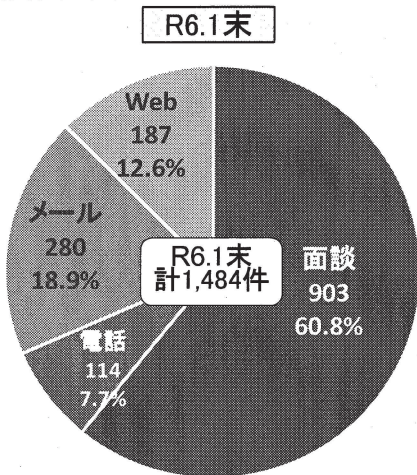
R6.1末	53.3%	2.4%	0.9%	0.9%	20.8%	9.4%	4.7%	7.5%
R5.1末	51.4%	3.4%	0.0%	1.7%	20.7%	7.3%	6.1%	9.5%

2 相談者の状況
相談件数 1,484件

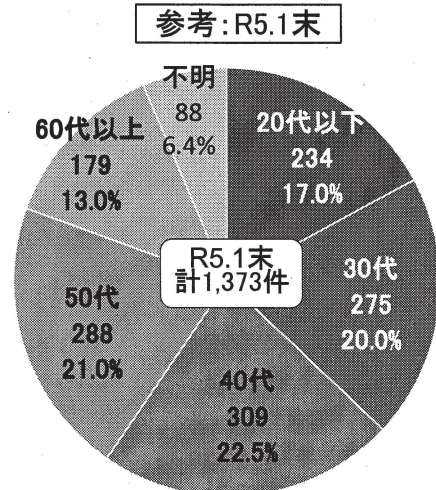
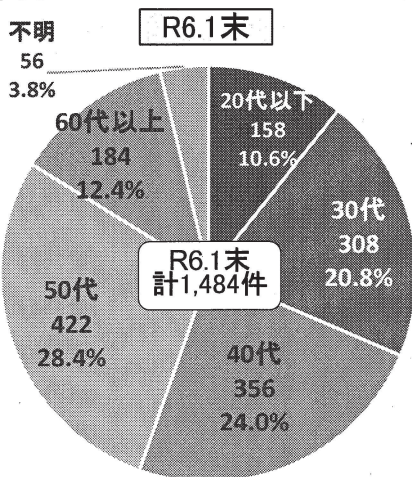
(1) 受付場所



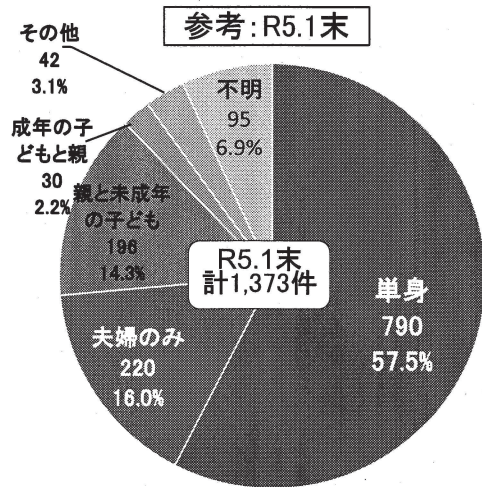
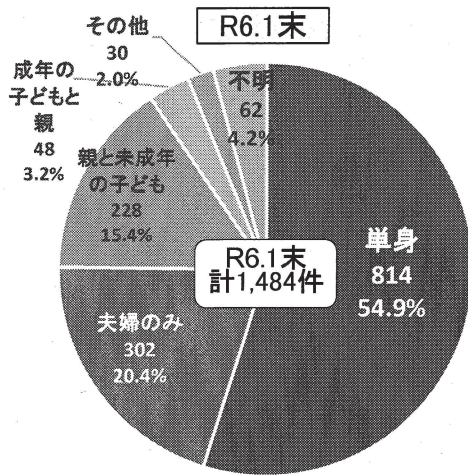
(2) 相談方法



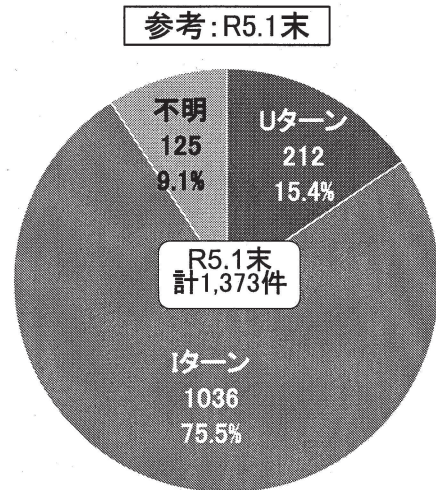
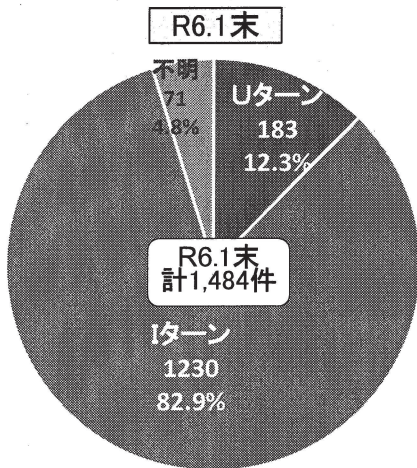
(3) 年代



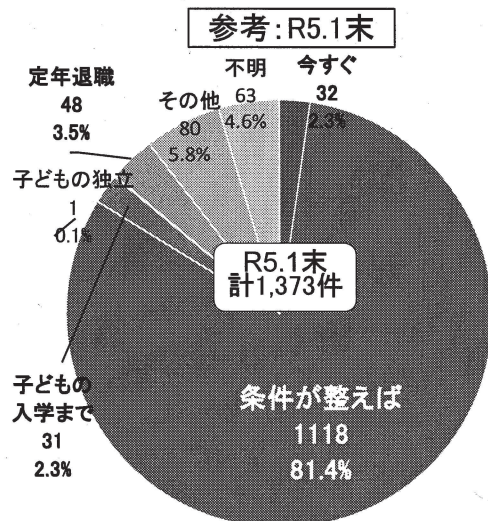
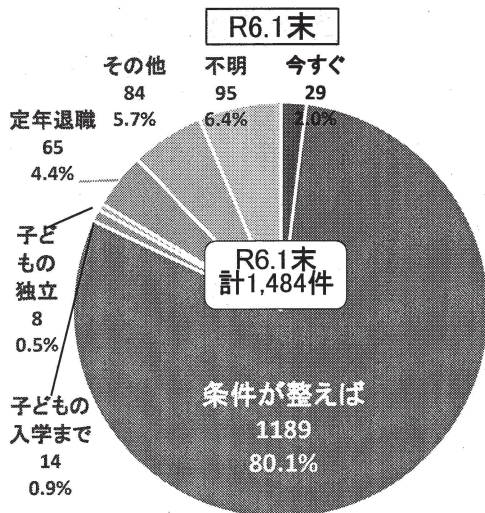
(4) 家族構成



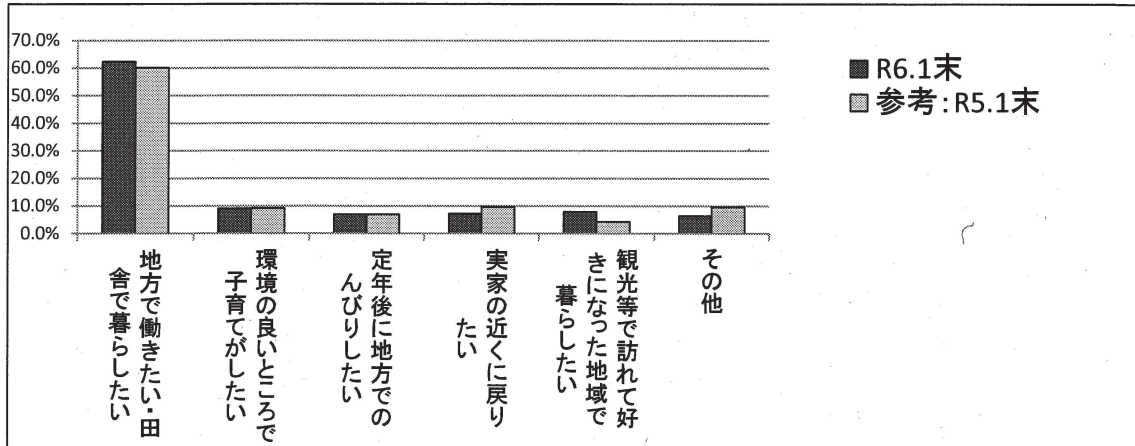
(5) Uターン/Iターン



(6) 移住希望時期

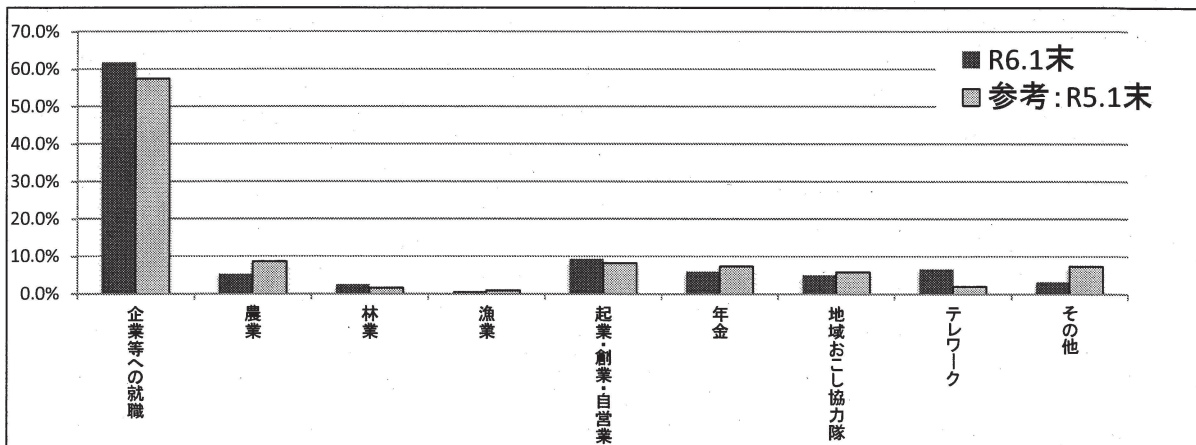


(7) 相談のきっかけ(複数回答有延べ R6.1末:1,694 件、R5.1末:1,500 件)



R6.1末	62.4%	9.1%	7.0%	7.2%	7.9%	6.4%
R5.1末	60.1%	9.2%	7.0%	9.7%	4.3%	9.7%

(8) 移住先での生活基盤(複数回答有延べ R6.1末:1,761 件、R5.1末:1,637 件)



R6.1末	61.8%	5.3%	2.4%	0.6%	9.2%	5.9%	4.9%	6.6%	3.2%
R5.1末	57.5%	8.7%	1.7%	0.9%	8.3%	7.5%	5.9%	2.1%	7.5%

(所管事項)

6 スポーツの推進について

三重県スポーツ推進条例がめざす、県民がスポーツの価値を広く享受し、県民力を結集した元気なみえの実現に向け、市町および関係団体等と連携し取り組んでいます。

1 県営スポーツ施設の管理運営、整備

(1) 利用者数、利用促進の取組

①利用者数

ジャパンラグビーリーグワンや三重県室内選手権水球競技大会（三重交通G スポーツの杜 鈴鹿）、全日本中学校通信陸上競技大会（三重交通G スポーツの杜 伊勢）が開催されるなど、令和6年1月末時点における4つの県営スポーツ施設の利用者数は、720,585人となっています。

施設名	利用者数	合計	目標値
三重交通G スポーツの杜 鈴鹿	415,821	720,585	839,000
三重交通G スポーツの杜 伊勢	272,338		
ドリームオーシャンスタジアム	29,732		
ライフル射撃場	2,694		

②利用促進の取組

大規模大会の誘致・開催や合宿の受入れ、スポーツ教室や体験会の開催など、利用促進に取り組んでおり、引き続き指定管理者と連携し取組を進めます。

(2) 施設整備の状況

今年度においては、三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 サッカー・ラグビー場等の照明LED化改修、三重交通G スポーツの杜 伊勢 陸上競技場のサッカー・ラグビー利用に向けた芝生常緑化、ライフル射撃場の管理棟新設などの整備を進めました。

なお、三重交通G スポーツの杜 鈴鹿については、すべての照明のLED化が完了しました。

令和6年度においても、施設機能の維持・向上や老朽化施設の改修等を計画的に行い、安全、快適な利用環境の提供に取り組めます。

2 地域スポーツの推進

(1) スポーツイベントの開催

県民の皆さんがスポーツにふれ親しむ機会とするため、「みえのスポーツフォーラム2023」、「みえスポーツフェスティバル2023」、「第17回美し国三重市町対抗駅伝」を開催しました。(別紙参照)

(2) 総合型地域スポーツクラブにかかる取組

今年度は、クラブアドバイザーによるクラブ訪問を行うとともに、県内4ブロックで「総合型地域スポーツクラブミーティング」や、県内5か所で総合型地域スポーツクラブのPRイベントである「スポーツアミューズメントパーク チャレスポ」を開催しました。(別紙参照)

令和6年度は、さらに取組を強化し、引き続き質的充実を図っていきます。

(3) レガシーを活用したみえのスポーツ支援事業

今年度は、令和6年1月末時点において計17件の支援を行っています。

今後も、市町、競技団体などとの連携を密にし、補助金を活用していただくことにより、スポーツを通じたまちづくりに取り組んでいきます。

<主な大会>

○国際大会

大会名 ATP 四日市チャレンジャー2023

開催日 令和5年11月26日～12月3日

開催場所 四日市テニスセンター

概要 楽天オープンに次ぐ国内有数のテニス男子プロ大会、世界各国から参加したランキング上位者によるシングルス・ダブルスのトーナメント戦

○全国大会

大会名 第37回全日本小学生女子ソフトボール大会

開催日 令和5年7月29日～8月1日

開催場所 熊野市山崎運動公園ほか

概要 全国各地の予選を勝ち抜いた48チームによるトーナメント戦

○競技普及

大会名 ウォークラリー大会in津2023

開催日 令和5年5月21日

開催場所 津市立新町小学校周辺

概要 レクリエーションスポーツであるウォークラリーの普及のため、津市内の名勝、旧跡などを楽しく歩く大会

1 スポーツイベントの開催内容

(1) みえのスポーツフォーラム2023

日 時：令和5年9月2日(土)

場 所：松阪市嬉野ふるさと会館

内 容：柏原竜二さん(箱根駅伝「2代目山の神」)と土性沙羅さんによる対談、藤田慶和さん(三重ホンダヒート)によるトークショー、三重ホンダヒートによるラグビー体験、ボッチャ体験など

参加者：約300名

(2) みえスポーツフェスティバル2023

日 時：9月、10月の土曜日・日曜日を中心に実施

会 場：県内各地

種 目：サッカー、テニス、オリエンテーリング、グラウンドゴルフなど計60種目のスポーツ及びレクリエーションスポーツ

参加者：集計中

(3) 第17回美し国三重市町対抗駅伝

日 時：令和6年2月18日(日)

コース：県庁前～三重交通G スポーツの杜 伊勢 10区間 42.195km

チーム：全29市町各1チームおよびオープン参加5チーム(津市、四日市市、伊勢市、松阪市、鈴鹿市)の全34チーム

2 総合型地域スポーツクラブにかかる取組内容

(1) ブロック別総合型地域スポーツクラブミーティング

ブロック	開催日	会 場	参加者
北勢	8月9日(水)	四日市市総合体育館 大会議室	34名
中勢伊賀	8月1日(火)	メッセウイングみえ 大研修室	20名
南勢志摩	8月22日(火)	三重交通G スポーツの杜 伊勢 控室3・4	39名
東紀州	8月25日(金)	熊野市文化交流センター 多目的ルーム	13名

○参加者

クラブ関係者、スポーツ推進委員、スポーツ少年団関係者、市町担当者

○主な内容

- ・「部活動地域移行」の現状説明(県教育委員会事務局担当者)
- ・講演
- ・参加者によるグループワーク

(2) スポーツアミューズメントパーク チャレスポ

地区	開催日	会場	主な体験	参加者
北勢	12月16日(土)	四日市市総合体育館 多目的室1・2	親子体操 ボッチャ	291名
中勢	12月10日(日)	安濃中央総合公園内 体育館	運動遊び 陸上体験	489名
南勢 志摩	11月23日(祝)	玉城町中央公民館 体育館	運動遊び 体操、吹矢	522名
伊賀	11月12日(日)	マツヤマ SSK アリーナ (名張市総合体育館)	運動遊び ダンス	379名
東紀州	10月22日(日)	熊野市総合グラウンド 体育館	運動遊び ユニカール	77名

※各地区総合型地域スポーツクラブが参画して実施

(所管事項)

7 南部地域の振興に向けた取組について

1 南部地域活性化基金を活用した取組等について

(1) 複数市町が連携した取組に対する南部地域活性化基金による支援

南部地域の13市町、有識者、県で構成する「南部地域活性化推進協議会」を設置して、市町が連携して行う若者の定住促進や働く場の確保に向けた地域活性化の取組に対し、南部地域活性化基金を活用して支援しています。

○南部地域自転車活用事業（玉城町、度会町、南伊勢町）

- ・サイクルルートのブラッシュアップ
- ・サニーロードサイクルフェスタ2023の開催（12/10 参加者532人）
- ・インスタグラム等による情報発信

○東紀州自転車活用事業（紀北町、尾鷲市、熊野市、御浜町、紀宝町）

- ・サイクリングマップ（モバイル版）の作成
- ・モバイルスタンプラリー実施（10/21～12/29 参加者110人）
- ・サイクリストに優しい施設登録促進（34施設登録）

○熊野古道路面標示シート設置事業（紀北町、尾鷲市）

- ・統一デザインによる路面シートの設置

○空き家バンク強化・活用連携事業（大台町、尾鷲市、紀宝町）

- ・360°カメラによるコンテンツの撮影、公開
- ・空き家バンク登録推進活動、登録のためのマニュアル作成

○地場産業、一次産業など地域産業の維持に関する関係人口の創出事業

（南伊勢町、尾鷲市）

- ・隙間バイトアプリを活用した一次産業体験ワークショップの実施
- ・新しい働き方の一環としての甘夏収穫ワークショップの試行的実施

○南部地域の魅力を生かした若者出逢いイベント事業（大台町、度会町、大紀町）

- ・出逢いイベント「キャンプコン」の実施（10/8 参加者19名）

○南三重地域就労対策協議会負担金（伊勢市ほか10市町）

- ・就職マッチング支援サイト「南三重就活ナビ」の運用
- ・企業紹介動画の作成・配信

【参考】南部地域活性化基金の状況（令和5年度分は見込み）

	金額（円）	備考
積立額累計（平成24～令和5年度）	176,476,302	
取崩額累計（平成24～令和5年度）	170,020,368	延べ92事業を支援
令和5年度末残高	6,455,934	

(2) 県が主体となった若者の定着や人口の還流に向けた取組

南部地域を離れた若者が地域の魅力に触れることのできる機会を提供し、地域への愛着形成や将来的なUターンにつなげる取組を実施しています。

○南部地域の企業・魅力体感事業

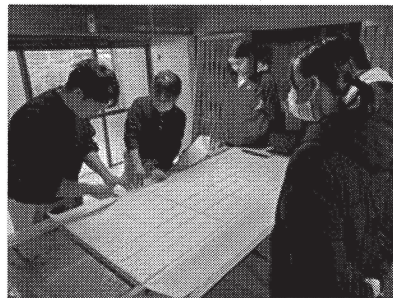
・南部地域の企業見学や地域で活躍する人びととの交流を目的としたバスツアーの実施

(伊勢志摩地域：11/9～10 参加者 20 名 (学生 16 名、社会人 4 名))

紀勢・東紀州地域：12/14～15 参加者 17 名 (学生 13 名、社会人 4 名))



カキ養殖・加工場の見学 (鳥羽市)



空き家改修ワークショップ (大台町)

○地域づくり人材支援事業

・大学生による地域課題をテーマにした長期フィールドワークの実施

(鳥羽市：「店舗や駅舎の有効活用×新たな観光コンテンツ」をテーマに
3 名が延べ 14 日間活動)

大紀町：「平日の民泊活用×施設生活を送る高齢者の楽しみ」をテーマに
4 名が延べ 14 日間活動)



住民との意見交換 (鳥羽市)



民泊を活用した高齢者の実家体験 (大紀町)

○ファンとともに南部地域の観光資源PR事業

・南伊勢町の滝をテーマに、滝マニアの知見を借りながら、地域の人びとが観光資源としての磨き上げを実施 (10/24 座学、11/13～14 現地調査、12/4 ワークショップ、3/2 モニターツアー)



座学 (南伊勢町)



現地調査 (南伊勢町)

2 熊野古道伊勢路世界遺産登録 20 周年の取組等について

(1) 「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録 20 周年記念サミットの開催

令和 6 年 7 月に世界遺産登録 20 周年を迎える「紀伊山地の霊場と参詣道」の魅力、メディア関係者、旅行事業者等に広く発信し来訪者の意欲喚起を図るため、東京都内において 3 県知事によるサミットを開催しました。

- ① 日 時：令和 6 年 2 月 8 日（木）
- ② 場 所：秋葉原UD Xシアター（東京都千代田区）
- ③ 参加者数：150 名（満席）
- ④ 出 席：
 - ア 県 三重県知事、奈良県知事、和歌山県知事
 - イ 沿線市町村長
 - 三重県 尾鷲市長、熊野市長、紀宝町長、多気町長
 - 奈良県 吉野町長、天川村長、野迫川村長
 - 和歌山県 九度山町長、那智勝浦町長
- ⑤ 内 容：
 - ア 記念トークショー
 - ・ 講演者：詩歩（Shiho）さん
（「死ぬまでに行きたい！世界の絶景」プロデューサー）
 - ・ 内 容：「紀伊山地の霊場と参詣道」の絶景スポットを紹介
 - イ 沿線市町村長による地域の魅力紹介
 - ウ 3 県知事による記念トークセッション
 - 【項目】
 - ・ 各県の世界遺産の魅力について
 - ・ 20 周年の取組について 等



3 県知事トークセッション



沿線市町村長による説明

(2) 熊野古道伊勢路踏破ウォークの開催

20 周年を記念して、熊野古道の価値や魅力を実際に歩いて感じてもらうため、伊勢神宮から熊野速玉大社までの 170 キロを歩く「熊野古道伊勢路踏破ウォーク」を開始しました。

《第 1 回》

- ① 日 時：令和 6 年 2 月 17 日（土）
- ② コース：伊勢神宮・田丸
- ③ 参加者数：89 名

- ④ 内 容：
 ア 出発式：一見知事、伊勢市長挨拶
 イ ウォーク：内宮→おはらい町→外宮→玉城町役場
 ※道中は語り部が案内
 ウ トークショー：ウォーク終了後、ゲスト2名によるトークショーを開催
 ・山岳ライター 小林千穂さん
 ・ラジオパーソナリティ 玉置侑里子さん
 ※トークショーには玉城町長も出席

《第2回》

- ① 日 時：令和6年2月18日（日）
 ② コース：田丸・女鬼峠
 ③ 参加者数：85名
 ④ 内 容：
 ア 出発式：廣田副知事、玉城町長挨拶
 イ ウォーク：玉城町役場→石佛庵→女鬼峠→柳原観音→グリーンプラザ
 おおだい

《第3回》

- ① 日 時：令和6年3月2日（土）
 ② コース：栃原・三瀬
 ③ 参加者数：81名
 ④ 内 容：
 ウォーク：グリーンプラザおおだい→馬鹿曲がり→三瀬の渡し→大台町役場

《第4回》

- ① 日 時：令和6年3月3日（日）
 ② コース：三瀬坂峠・滝原宮
 ③ 参加者数：84名
 ④ 内 容：
 ア 出発式：大台町長挨拶
 イ ウォーク：大台町役場→多岐原神社→三瀬坂峠→滝原宮→JR阿曾駅



出発式（内宮）



女鬼峠

(3) 伊勢路アルベルゲ協議会受入環境整備研修会の開催

伊勢路沿道の宿泊施設ネットワーク「伊勢路アルベルゲ協議会」の構成団体を対象として、外国人の受入対応や観光情報の提供に関する研修を実施し、約 50 名（延べ）の参加がありました。

①セミナー

- ・日 時：令和 6 年 1 月 22 日（月）
- ・場 所：県尾鷲庁舎
- ・内 容：訪日観光旅行者の最近の傾向についての解説や、熊野古道伊勢路、サンティアゴ巡礼路についての説明等を実施。

②ワークショップ

- ・日 時：令和 6 年 2 月 6 日（火）、7 日（水）、8 日（木）の 3 日間
- ・場 所：県尾鷲庁舎（6 日）、大紀町コンベンションホール（7 日）、
県熊野庁舎（8 日）
- ・研 修：インバウンドの接客対応、必要な設備、言語対応等の研修のほか、
「Google ビジネスプロフィール」(*) の活用や相談会等を実施。

(*) 世界中で利用されている Google が提供するサービス。登録することで Google マップ等に店舗の詳細な情報を最新かつ正確な状態に維持することができる。

(4) 熊野古道サポーターズクラブ

熊野古道に関心のあるボランティアを募集して、地域の保全団体の活動をサポートする保全体験（清掃ウォーク等）を行っており、参加者にはごみ拾い、枯れ枝・落ち葉の除去、看板の拭き掃除、道普請（雨などで流出した道に土を運び入れてならし固める補修作業）等を実施しています。

<今年度の取組（実績・予定）>

10 月 15 日	松本峠（熊野市）	32 名参加
11 月 8 日	熊野川（紀宝町）	22 名参加
11 月 11 日	始神峠（紀北町）	23 名参加
12 月 10 日	大吹峠（熊野市）	27 名参加
1 月 13 日	三瀬坂峠（大紀町）	35 名参加
”	女鬼峠（多気町）	26 名参加
2 月 10 日	二木島峠・逢神坂峠（熊野市）	20 名参加
3 月 16 日（予定）	波田須の道（熊野市）	



三瀬坂峠



女鬼峠

(5) 熊野古道伊勢路一斉クリーンアップ作戦

熊野古道の保全について社会の関心を高めるとともに、熊野古道に関心・愛着を持つ人を増やしていくため、保全団体とボランティアで「熊野古道伊勢路一斉クリーンアップ作戦」を実施しました。

なお、本年度、馬越峠については、三重交通グループが松阪駅～馬越峠を往復する無料ボランティアバスを運行し、参加者が清掃等を行いました。

① 実施日 令和5年12月10日(日)

② 参加者

・熊野古道サポーターズクラブ会員 (10名)

・協力団体・ボランティア (69名)

※ 三重交通ボランティアバス利用者、三重交通社員等が参加

・尾鷲高校及び木本高校の生徒 (28名)・教員 (4名)

・保全団体 (60名)

・行政機関など (27名)

計 198名 参加

③ 実施団体及び場所

ア ボランティア等の参加を得て実施

・三瀬坂峠を守る会 三瀬坂峠 (大紀町) : 協力団体が参加

・海山熊野古道の会 馬越峠 (紀北町側) : 協力団体・ボランティアが参加

・二木島峠・逢神坂峠世話人会 曾根次郎坂・太郎坂 (尾鷲市、熊野市)

: 尾鷲高校、木本高校が参加

・(一社)熊野レストレーション 大吹峠 (熊野市)

: 熊野古道サポーターズクラブ、協力団体が参加

イ 保全団体メンバーのみで実施

・三瀬の渡し保存会 : 三瀬の渡し場周辺 (大台町)

・荷坂峠まもる会 : 荷坂峠 (紀北町)

・だんだんの会 : 松本峠 (熊野市)

・熊野川体感塾 : 熊野川川原 (紀宝町)

④ 活動内容

ごみ拾い、枯れ枝・落ち葉の除去、看板の拭き掃除等



曾根次郎坂・太郎坂 (高校生参加)



馬越峠 (三重交通等が参加)

3 今後の対応について

昨年 12 月に策定した「三重県南部地域振興プラン」に基づき、若者の定着・人口の還流、地域産業の活力向上及び賑わいのある南部地域に向けて取り組むとともに、南部地域活性化基金を活用して、複数市町の連携による南部地域の活性化に向けた取組を支援します。

また、熊野古道世界遺産登録 20 周年を迎え、市町や関係団体等と連携しながら機運の醸成を図り、「歩き旅」のブランディングを進めるとともに、来訪者が安全・快適に歩ける環境を整備し、多くの人々に伊勢路を訪れていただけるよう取り組んでいきます。

(所管事項)

8 令和4年度包括外部監査結果に対する対応結果について

1 監査テーマ

観光振興・観光関連事業に関する事務の執行について

2 監査結果と対応結果

対象となった事業に対して、「指摘」3件、「意見」12件がありました。
その内容と対応結果は、次表のとおりです。

※「指摘」…法令、条例、規則、要綱等、県が遵守すべき規範に従っていない事項及び有効性、効率性並びに経済性に著しく反している事項として、速やかに改善することを求めたもの。

「意見」…有効性、効率性並びに経済性の観点から意見を述べた事項として改善を検討することを求めたもの。

令和4年度 包括外部監査結果に対する対応結果

テーマ・区分・内容	対応結果	備考
包括外部監査の意見及び指摘		
I 施策 251 南部地域の活性化		
1 豊かな自然の中で安心して楽しめる南部地域魅力発信事業費		
① 補助金実績報告書の添付書類の確認について【指摘】		
<p>南部地域体験教育旅行促進事業費補助金において、実績報告書に添付された請求明細の金額よりその領収書等の金額の方が多いたった。補助額に変更はなかったが、支払額の確認について瑕疵が無いようにすべきである。</p>	<p>補助金額への影響がない場合であっても、請求明細の金額と領収の金額に差異がある場合は、速やかに再提出を求めて、適切に対処しました。</p>	<p>南部地域振興企画課</p>
② アンケート結果の活用と南部地域の魅力向上への取組について【意見】		
<p>南部地域への体験教育旅行を実施した学校等へのアンケート結果では、満足度は高い結果となっていたが、コロナ収束後に南部地域への教育旅行を実施したいと回答した割合は半分以上だった。南部地域の魅力をさらに高めるための継続的取組が必要と考えられる。</p>	<p>教育旅行誘致に取り組む団体とも連携しながら、引き続き教育旅行の目的地として南部地域が選ばれよう取り組みました。</p>	<p>南部地域振興企画課</p>
③ 県内教育旅行促進支援事業との関係について【意見】		
<p>南部地域体験教育旅行促進事業補助金は、南部地域以外を目的地とする県内教育旅行促進支援事業支援金と比較すると、制度の趣旨・時期・補助額等がほぼ同じで、格別に南部地域を選んでもらうインセンティブに乏しい。 別事業としたことにより、南部地域の活性化に寄与したか等々、実施結果の分析等により説明責任を果たす必要があると思われる。</p>	<p>実施結果を分析し、南部地域への教育旅行を実施する県内学校への支援を継続するとともに、令和5年度においては、県外学校に対する南部地域への教育旅行誘致を行うなど、教育旅行の目的地として南部地域が継続的に選ばれるよう取り組んでいます。</p>	<p>南部地域振興企画課</p>
④ 南部地域への教育旅行に係る受入環境整備及び情報発信業務委託について【意見】		
<p>業務委託の企画コンペ選定委員会において、委員5名中1名が欠席していた。選定要領では、定数の3分の2以上の出席があれば問題ないが、より多様な意見を反映した選定ができるよう、欠席がある場合には、代理出席の方法をとることが望ましい。</p>	<p>今後は、選定委員への就任を依頼する際に、欠席する場合に備えて代理を確保します。</p>	<p>南部地域振興企画課</p>

II 施策 252 東紀州地域の活性化		
1 東紀州地域振興推進事業費		
① 負担金の決定方法について【意見】		
東紀州地域振興公社への負担金について、県として負担基準や考え方等に関する基本的事項を定めた規約等を整備することが望ましい。	県と東紀州地域5市町は、令和4年12月に、東紀州地域振興公社への負担金に関するそれぞれの負担基準や考え方を協議のうえ書面で合意しました。	東紀州振興課
2 選ばれる東紀州地域を目指して産業活性化支援事業費		
① 補助事業の完了検査における確認漏れについて【指摘】		
<p>県は、東紀州産業活性化事業推進協議会が実施する事業について事業費の半額を補助しているが、当該協議会の契約書において委託者が東紀州地域振興公社となっているものがあった。請求書も公社宛てになっており、履行確認も公社検査職が行っていた。</p> <p>当該協議会事務局が公社内にあるため担当者が処理を誤ったということであったが、県の補助事業の完了検査において見過ごされている。</p> <p>県としては、事務的なミスが補助金の不適切な支給に繋がらないように、補助事業の内容をより一層精査するとともに、チェック体制の強化を図るべきである。</p>	<p>県は、東紀州産業活性化事業推進協議会に対して、適切に補助事業を執行するように、改めて注意喚起を行い、チェック体制の強化や、会計書類の会計名ごとの明確な区分化など、改善策を確認しました。</p> <p>また、補助事業の内容を一層精査できるよう、完了検査を従来の一人体制から二人体制に強化します。</p>	東紀州振興課
② 補助金交付先団体における業者選定手続の確認について【意見】		
東紀州産業活性化事業推進協議会が支払った委託料（8,789千円。補助事業総額の77%）について、県の簿冊には、委託に関する業者選定資料またはその確認が行われた資料が綴られていなかった。補助事業の完了検査において、その内容を確認しているとのことだが、確認した証拠書類を県の書類として残しておくことが望ましい。	これまでの完了検査では、契約書や支出関係書類の写しのみ提出を求めていましたが、今後、補助事業のうち金額の大きい契約については、業者選定資料等の写しの提出も求め、簿冊に編綴します。	東紀州振興課
③ 補助金交付先団体の規約について【意見】		
東紀州産業活性化事業推進協議会規約に条文上の齟齬（条項番号の不一致）が見られた。補助金の対象となる団体の規約について、県は確認を行い、指摘・訂正依頼を行うことが望ましい。	規約の条文上の齟齬について、令和4年8月に東紀州産業活性化事業推進協議会に指摘・訂正依頼を行い、訂正済みです。	東紀州振興課
④ 負担金の決定方法について【意見】		
「1 東紀州地域振興推進事業費 ① 負担金の決定方法について」の意見と共通する。	県と東紀州地域5市町は、令和4年12月に、東紀州地域振興公社への負担金に関するそれぞれの負担基準や考え方を協議のうえ書面で合意しました。	東紀州振興課

3 Easy Access to 東紀州！プロジェクト推進事業費		
① 負担金の決定方法について【意見】		
「1 東紀州地域振興推進事業費 ① 負担金の決定方法について」の意見と共通する。	県と東紀州地域5市町は、令和4年12月に、東紀州地域振興公社への負担金に関するそれぞれの負担基準や考え方を協議のうえ書面で合意しました。	東紀州振興課
② 令和3年度「吉野・高野・熊野の国」事業実行委員会負担金について【意見】		
奈良県は負担金交付要綱を作成しており、三重県においても交付要綱の整備について検討することが望ましい。	奈良県の例などを参考に、交付要綱を作成中です。	東紀州振興課
4 東紀州地域集客交流推進事業費		
① 契約保証金の免除にかかる契約実績の確認手続について【意見】		
熊野古道センター関連の修繕契約における契約保証金の納付免除について、契約実績の有無や不適格業者かどうかを確認した書類を簿冊にファイルしておくことが望ましい。	今後、契約保証金の納付免除にあたっては、契約相手方となる業者が条件を満たしていることを確認した書類を簿冊に編綴します。	東紀州振興課
5 熊野古道活用促進事業費		
① 熊野古道情報発信用ノベルティの現物数量の適切な管理と積極的な配布について【指摘】		
ノベルティを4品目現物確認したが、4品目の内2品目について現物の数量が不一致であった。定期的に受払管理簿と現物を照合し、差異があった場合は原因を適時に調査すべきである。 また、購入以降配布された数量が少なく実地監査を行った時点でも多数残っていたため、今後イベント開催時に積極的に配布することが望まれる。	定期的に受払管理簿と現物を照合することとし、在庫管理を徹底します。 また、ノベルティは計画的かつ効果的に活用していきます。	東紀州振興課
6 さあ出かけよう、熊野古道再発見旅事業費		
① 委託業務内容の変更について【意見】		
熊野古道伊勢路プロモーション動画の撮影場所について、当初仕様書に記載されていた場所から変更されていたが、仕様書の変更は撮影終了後の変更契約まで行われていなかった。適時に変更契約を締結することが望ましい。	仕様変更の必要性が確定した段階で、速やかに受託者と協議し変更契約を締結します。	東紀州振興課
② 企画提案コンペ選定委員会について【意見】		
「I 施策 251 南部地域の活性化 1 豊かな自然の中で安心して楽しめる南部地域魅力発信事業費 ④ 南部地域への教育旅行に係る受入環境整備及び情報発信業務委託について」の意見と共通する。	今後は、選定委員への就任を依頼する際に、欠席する場合に備えて代理を確保します。	東紀州振興課

(所管事項)

9 審議会等の審議状況について（報告）
（令和5年11月22日～令和6年2月18日）

1 審議会等の名称	三重県固定資産評価審議会
2 開催年月日	令和5年11月29日
3 委員	会長 斧田 正長 委員 片山 光 他8名
4 諮問事項	令和6年度固定資産（土地）に係る基準地価格について
5 調査審議結果	原案について承認を得た。
6 備考	

1 審議会等の名称	本人確認情報の保護に関する審議会
2 開催年月日	令和5年12月20日
3 委員	会長 片山 眞洋 委員 小川 友香 他2名
4 諮問事項	住民基本台帳ネットワークシステムによる本人確認情報を利用することができる事務の追加について
5 調査審議結果	<ul style="list-style-type: none">・住民基本台帳ネットワークシステムによる本人確認情報を利用することができる事務の追加について適当と認めるとの答申が決定された。・住民基本台帳ネットワークシステムによる本人確認情報を利用することができる事務の削除について報告した。・本人確認情報の保護に関する審議会の名称変更等について報告した。
6 備考	